

< A 表現 >

(3) 音楽づくりの活動を通して

* 小学校学習指導要領「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」より

(5) 音楽づくりの指導については、次のとおり取り扱うこと。

ア 音遊びや即興的な表現では、リズムや旋律を模倣したり、身近なものから多様な音を探したりして、音楽づくりのための様々な発想ができるように指導すること。

イ つくった音楽の記譜の仕方について、必要に応じて指導すること。

ウ 拍節的でないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げるようにすること。

第1学年及び第2学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「いろいろな音をさがそう」 教材名「学校できこえる音」

【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

【第1学年及び第2学年の音楽づくりの指導事項】

- ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
- イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 身の回りの様々な音について、それぞれの音に特徴があることや一つの音の素材から様々な音が出せることなどに気付き、音の面白さや豊かさを味わうようにする。
- イ 児童が見付けた様々な音を用いるようにするなど、自らが音に働き掛けて音を音楽にしていく過程を楽しむようにする。その際、教師は児童の感じ方や表現の良さを積極的に認めていくことが大切。
- ・児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 音遊びの例】

- ・リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりする遊び
- ・言葉の抑揚を短い旋律にして歌う遊び
- ・身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見付ける遊び
- ・体の動きに合わせて声や音を出す遊び など

【イ 活動の例】

- ・わらべうたに使われている音を用いて、問いと答えになるような短い旋律をつくる活動
- ・短いリズムをつくり、それを反復したりつないだりして簡単な音楽にする活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・自分たちの身の回りには様々な音があることに気付く。
- ・自分たちの身の回りにある音を見付け、友達と約束事を決めて身近な音素材を用いて表現する活動を通して、音の持っている特徴の面白さに気付く。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	〔共通事項〕との関連
<p>《題材を設定するに当たって》</p> <p>子どもたちは日々、様々な音に囲まれて生活している。しかし、音の存在を意識せずに生活している場合がほとんどである。子どもたち自らが音の存在に気づき、その音が持つ固有の特徴を生かして表現を工夫する楽しさを味わうことは、音楽を自らの側に引き寄せて楽しもうとする主体的な態度を育成することにつながっていく。</p> <p>子どもたちは、自分たちが生活する学校にどんな音があるのかを見付けていく。印刷室から聞こえてくる印刷機の音。給食室から聞こえてくる調理や食器を洗浄する音。体育館の体育の授業で聞こえてくる音。いろいろな場面の始まりや終わりを知らせるチャイムの音。このように、学校には子どもたちにとって魅力的な音があふれている。</p> <p>子どもたちは、友達と協力しながら音を見付けていく。見付けた音を自分たちなりの方法（記号や図形、文字や数字等）で記録する。採取した音の記録を基に、声や体でつくる音、身近な音素材、楽器等を使って再現していく。楽器以外にも音として楽しめる素材がたくさんあることに気付かせながら、この音遊びの時間を十分に楽しませたい。こうした活動を通して、音の持つ特徴の面白さ、つくって表現する楽しさを存分に味わわせたい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校を探検し、いろいろな場所から聴こえてくる音を集める。 <ul style="list-style-type: none"> ・耳を澄まし、学校にある音を見付けてくる。 ・必要に応じてメモをとれるようにしておく。 ・できるだけ多くの場所で音を集められるようにする。 ・どこでどのような音が聴こえてきたか発表する場を設定する。 ○ 一番心に残った場所の音を再度注意深く聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・改めて注意深く聴くことで、音の特徴に気付くようにする。 ・様々な音が複雑に重なる場合は、教師が補助しながら整理する。 <p>※自分たちなりの方法で記録することを伝えてから活動に移る。</p> ○ 集めた音を自分たちなりの方法で記録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・形式にとらわれず、子どもたちが思い思いの絵や記号、図形や文字等を自由に使ってかく。 ○ 記録を基に、聴こえてきた音をつくって表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながらお気に入りの音を再現する。 ・身近な音素材や楽器を自由に扱いながら、自分たちの思いを表現できるよう工夫していく。 <p>※鳴らし方や回数、順番等、同じ演奏が行える(再現性のある)ことを条件として与え、演奏の約束として押さえる。</p> <p>※できるだけ規制を加えず、音をつくって表現する活動を楽しませる。</p> ○ 「学校できこえる音」発表会を開く。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの求めに応じて発表の場を設定する。 ・友達のつくった音や音楽のよさや、もっとよくしたいところなどを発表する。 <p>※押さえない〔共通事項〕に即して意見を発表できるよう板書等を工夫する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱 音色 リズム 強弱

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活にある音の面白さに興味・関心を持ち、音遊びに進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活にある音の音色、リズム、強弱等様々な特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音の出し方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活にある音の様々な特徴を生かして音遊びをしている。

第3学年及び第4学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「思いを旋律であらわそう」 教材名「オリジナルチャイム」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の音楽づくりの指導事項】

- ア いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。
- イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質の違いによって音の特徴や雰囲気が異なったりすることに気付くように配慮する。
- イ 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、音楽の始め方や終わり方を意識して、まとまりのある音楽をつくるようにする。
- ・児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 即興的な表現の例】

- ・木、金属、皮など同じ材質のものを使ったり、あるいは異なった材質のものを組み合わせて使ったりして生じるそれぞれの音の響きを生かして表現する活動
- ・線や図形、絵などを楽譜に見立てて声や楽器などの音で表す活動
- ・自分の工夫した音をみんなで模倣したり、自分の工夫した音を使って友達と音で会話したりする活動 など

【イ 活動の例】

- ・問いと答えになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動
- ・我が国の音楽に使われているような五音音階などを使って簡単な旋律をつくり、それをつないだり音を重ね合わせたりする活動
- ・擬声語や擬態語など、言葉をリズムにのせて反復したり組み合わせたりする活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ

- ・旋律は、音の配列によって構成されることに気付く。
- ・同じ旋律も、音色や速度、リズムを工夫して表現することにより、受ける感じが異なることに気付く。
- ・上記のような音楽を形づくっている要素や仕組みを工夫することで、自分の思いを音楽として表現できることに気付く。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	[共通事項] との関連
<p>《題材を設定するに当たって》</p> <p>子どもたちの生活にはチャイムなどの合図の音がある。「やったあ、昼休みだ!」「大好きな給食の時間だ。」「苦手な算数が始まってしまった…。」「遅刻しちゃう!」など、チャイムの音は、その場面や聞き手によって受ける印象が全く違う。その時の場面や思いをチャイムで表すことにより、どのような気持ちでその場面を迎えているか、聞き手に伝わるような音楽づくりを行う。</p> <p>音の配列を工夫して旋律をつくったり、より思いを込めた音楽として表現するための音色や速度、リズム等を吟味したりする活動を通して、一人一人が自分の思いを納得のいく音で表現する楽しさを味わえるようにする。また、チャイムの規則的な音の配列やリズムなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、反復や問いと答え、変化など、音楽の仕組みを工夫する活動も考えられる。</p>	
<p>○ 学校のチャイムの旋律を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムから受ける印象を話し合う。 ・ピアノやオルガン等の鍵盤楽器でチャイムを演奏してみる。 ・旋律やリズム、速度を変化させ、雰囲気の違いを楽しむ。 <p>※チャイムに和音を付けたり、リズムを変えたり、短調にアレンジしたりしたものを例示し、受ける印象を話し合うとともに、子どもたちも自由な発想で即興的な演奏を楽しむ。</p> <p>○ 学校生活のお気に入りの場面のチャイムづくりを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの場面の始まり（終わり）を告げるチャイムかを決める。 ・場面の雰囲気に合った旋律づくりを楽しむ。 ・表現する楽器など、音色を吟味する。 ・音の並べ方や速度、リズムを工夫する。 ・規則的な音の配列やリズムを用いる場合は、音楽の仕組みにも着目する。 ・友達と聴き合いながら旋律を再吟味したり表現を工夫したりする。 <p>※チャイムの特徴として、極力短い旋律でつくるようにする。</p> <p>※子ども一人一人の発想のよさを認め、表現したい場面への思いを明確にする。</p> <p>※表現したい場面について伝え合ったり、互いの音楽を聴き合ったりする活動を適切に位置付ける。</p> <p>※つくった音楽を必要に応じて視覚的に捉えたり、音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するように支援する。</p> <p>○ 発表会を開く。</p> <p>※子どもたちのつくったチャイムを実際に校内に流すことも想定する。</p>	<p>旋律 音色 リズム 速度</p> <p>旋律 音色 リズム 速度</p> <p>反復 問いと答え 変化</p>

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>・音楽の仕組みを生かし、場面に合ったチャイムにすることに興味・関心を持ち、思いや意図を持って音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>・旋律、音色、リズム、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、場面に合ったチャイムにするために、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図を持っている。</p>	<p>・音楽の仕組みを生かし、場面に合ったチャイムになるようまとまりのある音楽に構成している。</p>

第3学年及び第4学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「息の響きを楽しもう」 教材名「世界にひとつだけの楽器」

【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

【第3学年及び第4学年の音楽づくりの指導事項】

- ア いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。
- イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を変えることによって響き方が異なったり、楽器の材質の違いによって音の特徴や雰囲気異なったりすることに気付くように配慮する。
- イ 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組みを生かし、音楽の始め方や終わり方を意識して、まとまりのある音楽をつくるようにする。
- ・ 児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・ 視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 即興的な表現の例】

- ・ 木、金属、皮など同じ材質のものを使ったり、あるいは異なった材質のものを組み合わせて使ったりして生じるそれぞれの音の響きを生かして表現する活動
- ・ 線や図形、絵などを楽譜に見立てて声や楽器などの音で表す活動
- ・ 自分の工夫した音をみんなで模倣したり、自分の工夫した音を使って友達と音で会話したりする活動 など

【イ 活動の例】

- ・ 問いと答えになるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動
- ・ 我が国の音楽に使われているような五音音階などを使って簡単な旋律をつくり、それをつないだり音を重ね合わせたりする活動
- ・ 擬声語や擬態語など、言葉をリズムにのせて反復したり組み合わせたりする活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア

- ・ 息を使った音の響きに関心を持ち、自分の息でいろいろな響きを生み出せることに気付く。
- ・ 息の響きを生かして音色、リズム、強弱、音の重なりなどを工夫し、情景や場面に合う音楽を表現できる面白さに気付く。
- ・ 様々な表現技法と向き合い、表現へのこだわりや思いを強める。

第5学年及び第6学年 A 表現 (3) 音楽づくり

題材名「お話と音楽」 教材名「紙芝居音楽」

【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。

【第5学年及び第6学年の音楽づくりの指導事項】

- ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
- イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

【指導に当たって】

- ア 今までの音楽経験を生かして、児童が音楽的な約束事を決めて表現を工夫したり、いろいろな音楽の中から即興的な表現を見つけて表現の工夫に生かしたりする。
- イ 児童が明確な考えや願い、意図をもつようにし、それを実現するために必要な音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを選んだり組み合わせたりして、まとまりのある音楽になるようにする。
- イ 互いの表現を聴き合い、よさを認めたり、意見を述べたりして、よりよい表現を目指すようにする。
- ・児童一人一人の発想のよさを認め、それらを共有するような活動を考えることが大切である。
 - ・視唱や視奏の活動において、つくった音楽を必要に応じて視覚的にとらえたり、その音楽を再現したりする手掛かりとなるよう記譜の仕方を工夫するようにする。

【ア 即興的な表現の例】

- ・身の回りの楽器を使ってその楽器が出せる様々な音を探る活動
- ・自分の工夫した音を使って友達と音で会話する活動
- ・自分の工夫した音を反復したり友達の工夫した音と組み合わせたりする活動 など

【イ 活動の例】

- ・自分たちで選んだ音階を用いて旋律をつくったり、それに反復や変化を加えたりする活動
- ・いくつかのリズム・パターンを重ねたり組み合わせたりする活動
- ・(上記の作品の)構成を工夫し、まとまりのある音楽をつくる活動 など

【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, イ

- ・場面の様子や登場人物の気持ちを表すのに効果的な音楽があることに気付く。
- ・場面の様子や登場人物の気持ちを表すために、様々な音楽を形づくっている要素に働き掛け、即興的に表現する。
- ・今までに習得したいろいろな音楽表現を活用し、紙芝居を見る(聴く)立場から自分たちの表現を見つめ、紙芝居がより楽しめるような効果的な音楽表現を工夫する。

【学習の流れ（例）】

学 習 の 流 れ (例)	[共通事項]との関連
<p>○ 音楽紙芝居と出会う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメや映画にBGMや効果音が使われていることに気づき，1年生にプレゼントする紙芝居を音楽で飾っていく意欲を持つ。 ・場面や登場人物の気持ちによってBGMが変わったり効果音が使われていたりすることに気付く。 <p>○ 紙芝居を選び，音楽を付ける場面を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴く対象を明確にして素材を選ぶようにする。 ・グループごとに一つの紙芝居を場面で分けたり，いくつかの紙芝居のお気に入りの場面を取り上げたりして，音楽を効果的に生かせる素材を選ぶようにする。 <p>※他教科とのタイアップも考えられるが，既製の紙芝居を使うなど，音楽の授業では音楽づくりに集中できるよう配慮する。</p> <p>○ どの場面に，どのような音楽や効果音を入れていくかを構想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音を出すタイミングや音色，強弱，音の組合せなどを工夫する。 ・場面や登場人物の気持ちと音階や調との関係を意識して音を選ぶ。 ・できた旋律やリズムに反復や変化を加えて，気持ちや場面にふさわしい音楽を工夫する。 ・BGMや効果音だけではなく，物語や主人公のテーマなどもつくる。 ・記譜の仕方を工夫する。 <p>○ 他のグループと互いに発表し合ったり聴き合ったりして，全体の流れやまとまりを意識しながら表現を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を鑑賞する1年生の立場で意見交換しながら，作品を仕上げていく。 ・1年生を楽しませることを意識して音楽づくりを工夫する。 <p>○ 1年生を招待して紙芝居発表会を開く。</p>	<p>音色 リズム 速度 旋律 強弱 和声の響き 反復 問いと答え 変化 音楽の縦と横の関係</p>

【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を飾る様々な音楽表現に興味・関心を持ち，即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。 ・音楽の仕組みを生かし，音を音楽に構成することに興味・関心を持ち，見通しを持って音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，様々な音楽表現や音楽の仕組みを生かし，音を音楽に構成するための試行錯誤をし，紙芝居の場面に合う音楽やテーマ音楽をどのようにつくるかについて発想や考え，意図，見通しを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音楽表現から得た発想を生かして，紙芝居の場面（自然，情景，人の気持ちや心の変化など）に合う音楽を即興的に表現している。 ・紙芝居の展開に沿って，音楽の仕組みを生かし，見通しを持って音を音楽に構成している。

